

## 令和5年度第3回 小平市環境審議会 会議要録

### 1 日 時

令和6年2月9日（金） 午後2時～4時

### 2 開催方式

小平市役所5階504会議室（対面・オンライン）

### 3 出席者

○小平市環境審議会委員 11名

奥真美会長、中島裕輔副会長、京島良幸委員、坂岸真子委員、竹内大悟委員、夏原由雄委員、堀米明委員、渡邊智宏委員、渡邊吉夫委員、綿貫知己委員、大黒康広委員（ZOOM）

○事務局 10名

環境部長、環境政策課長、環境政策課長補佐、環境政策課計画推進担当2名、資源循環課長、水と緑と公園課長、水と緑と公園課長補佐2名、下水道課長

### 4 傍聴者

0名

### 5 議 題

- (1) 令和6年度環境部が担当する主な事業の概要について
- (2) 都市計画公園整備に向けた進捗状況について

### 6 報告

- (1) 用水路管理方針案について
- (2) 環境・グリーンフェスティバルの統合について

### 7 その他

今後の日程等

### 8 配付資料

- ・資料1 令和6年度主要事業概要（環境部）
- ・資料2① 都市計画公園整備の進捗状況について
- ・資料2② 鷹の台公園整備基本計画（素案）
- ・資料3① 小平市用水路管理方針案について
- ・資料3② 小平市用水路管理方針案（要返却）
- ・資料3③ パブリックコメントの結果について（要返却）
- ・資料4 環境フェスティバル及びグリーンフェスティバルの統合について

## 9 内 容

### 議題(1) 令和6年度環境部が担当する主な事業の概要について

(事務局)

資料1に沿って説明。

(京島委員)

①太陽光・LED・電気自動車について、具体的にどの程度のCO2削減効果があり、市全体何パーセント程度になるのか。②能登半島震災を受けて、BCP対策についての考えがあれば教えてほしい。③CN都市ガスはどのようにカーボンニュートラルを達成しているのか。

(事務局)

①花小金井小学校の増築棟に10kwの太陽光発電の設置を検討している。ESCO事業を活用しての図書館、公民館、地域センターへの照明LED化により269t-CO2の削減、CN都市ガスの庁舎への導入により本庁舎排出量の約1/4、136.9t-CO2の削減を見込んでいる。②災害対策として、蓄電池の導入より費用対効果が大きい電気自動車を計画的に増やしていく。③CN都市ガスはカーボンオフセットされたガスである。

(渡邊吉委員)

①予算額が事業の横に記載されているとよい。②資源循環課はごみ分別アプリの外国版導入の内容しか主要事業として記載されていない。ごみ処理の予算はかなり多いと思うが、来年度はこれだけしか事業がないのか。

(事務局)

①手元の資料には記載していないが、市ホームページに予算額の概要が掲載されているので確認していただきたい。資料の記載内容については、今後検討していく。②事業は3Rの推進や食物資源の循環事業など、毎年拡充しながら多数の事業を実施している。ここには初めて実施する主要事業等が記載されている。

(竹内委員)

猫の対策について、不妊・去勢手術費の助成のほか、譲渡活動の費用の助成を行うことは、すばらしい取組である。地域住民との合意形成と猫の所有権について課題があると思っており、行政が間に入って解決する取り組みが求められると思っている。

(事務局)

猫は好きな人と嫌いな人がおり、様々な意見がある。合意形成としては、地域猫活動の前にビラ配りをお願いしている。また、TNR活動という、野良猫を捕獲機で捉え不妊手術した後、もとの地域に戻す活動により、猫の増加を抑制する取組の理解を深めていただくように、市報等で周知を行っている。

所有権の問題については、猫捕獲器を設置する前に周知用のチラシを捲いて一定期間内は外に猫を出さないように呼び掛けている。現時点でトラブル等はない。

(堀米委員)

花小金井小学校の太陽光発電の設置について、計画にある施設数としてカウントするのか。

(事務局)

カウントの仕方については整理する。

(渡邊智委員)

ごみ分別アプリの外国版導入について、今回導入した理由は外国人が増えてきたからなのか、ルールが守られていないから始めるのかなど、導入の経緯を教えてください。

(事務局)

外国人が増えてきたから導入したという訳ではない。市内には5,000人程度の外国人がいる。令和元年度よりゴミの有料化を行い、分別内容を細分化した。ゴミの出し方について間違える方も多く、外国人向けに冊子を作っているが、なかなか浸透していない。電話での対応もハードルが高いのでアプリ導入に至った。

(夏原委員)

小平市で指定管理者制度を活用している施設はあるのか。

(事務局)

総合体育館、有料駐車場、学童保育等は指定管理者制度を導入している。包括指定管理といわれる複数の施設を一体的に行うのは小平市では初めてである。

(奥会長)

複数の施設を一体的に行うことのメリットはあるのか。

(事務局)

スケールメリットがあるのと、民間でのノウハウを活用できる。

(夏原委員)

外注することによって、今まで小平市にあった公園管理のノウハウが無くなる心配はないか。

(事務局)

全ての公園を指定管理に出している自治体においてはノウハウが薄れることはある。小平市は一部であるため問題ないと捉えている。

## 議題(2) 都市計画公園整備に向けた進捗状況について

(事務局)

資料2①②に沿って説明

(綿貫委員)

Park-PFIのデメリットは何か。

(事務局)

国交省などでもデメリットは示されていない。整備された公園を事例としてみると、公募設置管理制度で、民間によって作られる収益施設は、カフェや飲食店が多いが、コロナなどで収益面に影響が出ると撤退してしまうようなことがリスクとなる。その後、次の民間業者の参

入がないなどの場合はデメリットになると考えられる。

(坂岸委員)

- 1 点目は鎌倉公園のことで、早期に事業認可取得の要望とは誰から出たのか。
- 2 点目は、サウンディング型市場調査とはどのようなことを行ったか。
- 3 点目は、鷹の台公園予定地で協働のイベントを実施したということだが。

(事務局)

1 点目について、都市計画決定はしているが、まだ事業認可を取得していない区域の地権者からいただいた。当初は令和12年度以降の予定であったが、早期に事業認可を取得できるように準備していく。

2 点目について、鎌倉公園の整備図等を説明した上でご意見をいただいた。具体的な整備内容等の他に、用地取得を進めながら整備するため、公募設置管理制度の活用は厳しいなどの意見をいただいた。

3 点目について、本年1月13日の「TAKANODAI POPPO POTATO PARK」は、地域の方が主体になって出展者も呼び事業を実施した。

(坂岸委員)

2 点目のサウンディング型市場調査は鷹の台公園でも実施しているが、その内容は。

(事務局)

鷹の台公園関係では昨年度と今年度実施しており、市の事業の方向性を説明した上で、興味のある事業者と意見交換を行った。市の考えを伝え、民間事業者の意見を伺い、参入しやすい条件の設定などのため、興味のある民間事業者との対話を重ねている。

(竹内委員)

近年では、緑地の機能としてグリーンインフラの考え方が主流になりつつあり、ただ植えるだけでなく、緑をどう活用するかに主眼が置かれている。設計段階からの工夫が重要なため、公募の際にグリーンインフラを評価の基礎としてみていければいいと思う。

(事務局)

この計画策定には利用者目線で進めるという考えがあったため、地域の皆さんの声を反映して策定した。来年度の公募は、この計画を踏まえてより民間事業者のノウハウを生かした提案を聞いて評価するという形を考えている。公募の際に委員のご意見等も参考にしていければと思う。

(中島副会長)

公園整備の中でゼロカーボンの考え方が入っていないのが気になった。防災機能の話はあったが、平常時からそれを活用してエネルギーを自立させるなど、都市公園にも脱炭素に寄与する考えを盛り込んでもらえればいいと思う。収益施設が飲食店の場合は、食品ロスなど考えを組み込む公募を検討してほしい。

(事務局)

鷹の台公園整備計画については、主にハード面について記載しているため、ゼロカーボンに

ついて明記していないが、考えていないわけではない。公募にあたってはそういった視点も考慮し評価していく。

## 報告(1) 用水路管理方針案について

(事務局)

資料 3①②③に沿って説明

(質問無し)

## 報告(2) 環境・グリーンフェスティバルの統合について

(事務局)

資料 4 に沿って報告

(堀米委員)

資料 4 の 1 ページ目にある経営方針推進プログラムはどこで見ることができるか。

(事務局)

市ホームページにて公表されている。検索すれば見ることができる。

(坂岸委員)

市民からすると 2 回でも少ないと思っていたのに楽しみが 1 回になるのは寂しい。経費の問題があると思うが、上手くやりくりできると思う。職員としても回数が減るとノウハウが失われてしまうのではないか。

(事務局)

環境部としては多くのイベントを行っており、フェスティバル以外にも沼さらい・蛍の夕べ等がある。

今後、市が主体となるイベントは減るが、指定管理事業者が自主事業として市民と一緒にやって行こうイベントが増えるようにしていきたい。

(京島委員)

グリーンは CO2 を吸収するもの。環境とグリーンが結びつくイベントの開催は嬉しく思う。

(堀米委員)

市民版環境配慮指針の冊子を広める上でも 2 回ある方がいいと思った。国ではデコ活（脱炭素に繋がる新しい豊かな暮らしを創る国民運動）を展開しているので、活用について検討してほしい。

(奥会長)

冊子の普及活動としては、フェスティバル以外でも考えられるので、検討してほしい。

(事務局)

地域の方の協力があってこそこのイベントであるので、地域の方と開催時期について相談するところから始まった。9 月だと緑が無くなってしまい、環境月間の 6 月だと花の季節などの間

題があることから、調整の結果、今回設定した5月の開催となった。

市民版環境配慮指針の冊子の配付については、ごみゼロフリーマーケット等でも配付しているので、他の環境イベント等でも引き続き配付に努めていく。

(渡邊智委員)

小平市は大学がたくさんあるので、学生の意見を取り入れていけないか。

(事務局)

鷹の台公園で実施した「TAKANODAI POPPO POTATO PARK」のイベントでは、武蔵野美術大学の学生にも協力していただいた。しかしながら、提案いただいた学生が卒業してしまう等、継続することに課題を感じている。また、学生と地域との繋がりとして、津田塾大学の文化祭を盛り上げるため、地元の方の有志が文化祭の時期に合わせて中央公園でイベントを開催している。

他にも下水道の日イベントにおいては、東京学芸大学の学生に毎年参加いただいている。コロナ禍で一旦途切れたが、昨年から再度参加いただいている。

(渡邊智委員)

他の自治体ではゼミと関わりを持つことで継続性を保っているところもあるので参考にしてはどうか。

## その他

- ・ 次回の環境審議会は令和6年8月に開催予定。